KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立トラクタ装備形
土壌消毒機

MF40
MF50
MF60

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

⚠ 注　意

- この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- この取扱説明書で解説している機械を、貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

警告表示ラベルについて

- この取扱説明書で解説されている機械には、「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に「警告表示ラベルの位置」で確認し、ラベルの意味を理解してください。
- 万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店より新しくラベルを購入し、「警告表示ラベルの位置」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。

はじめに

共立トラクタ装備形土壌消毒機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

- この土壌消毒機をこの取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。

目 次

はじめに …… 1
警告表示ラベルの位置 …… 2
正しい作業のために …… 3
各部の名称 …… 8
運転前の準備 …… 10
操作方法 …… 14
点検・整備 …… 16
故障探求 …… 18
ポンプ配管図 …… 19
仕様 …… 21

- 説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
- 本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 単位はＳＩ単位を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警　告

- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

丛に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

警告表示ラベルの位置

※ 説明図は「ＭＦ５０」で解説しています。

1.

⚠ 警 告

・保護マスク　保護メガネ　保護衣
ゴム手袋　ゴム長靴を用意し、安全な服装で作業してください。
・作業後は手足顔などをよく洗いうがいをしてください。
・作業中に少しでも体調がおかしくなったときは直ちに作業を中止し、医師の診断を受けてください。

X505-001700

2.

⚠ 注 意

取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

890016-02200

3.

⚠ 注 意

使用する農薬の取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。

X505-000600

4.

⚠ 警 告

ポンプを洗浄する前に必ずポンプ内の薬液を土中に排出してください

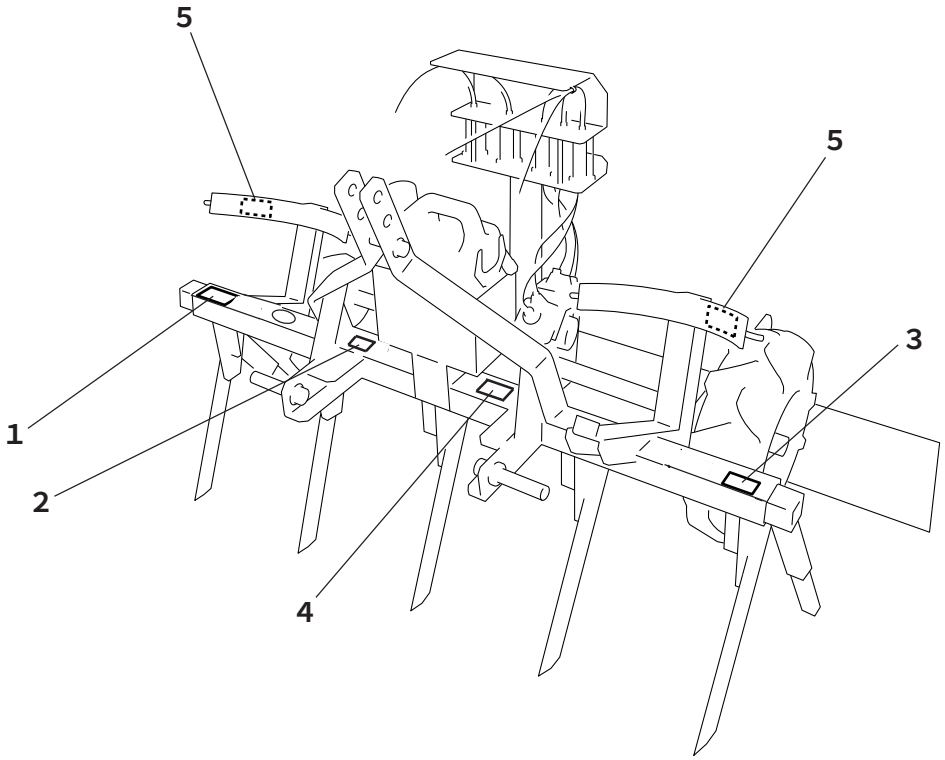
890016-00900

5.

⚠ 注 意

フタは確実にしめてください。
薬液をあびるおそれがあります。

890016-00600



MF50-01

正しい作業のために

⚠ 注　意

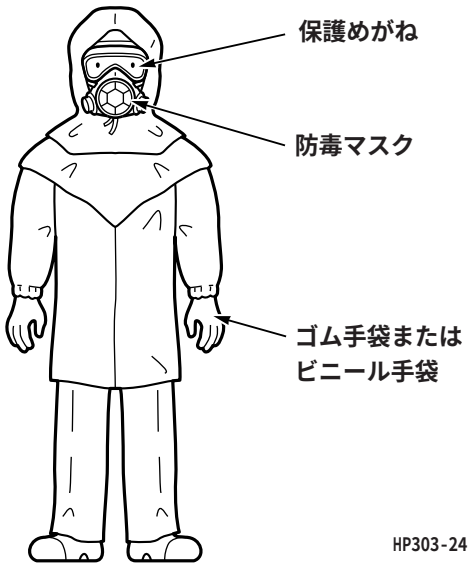
- 作業前に必ず取扱説明書を読み、以下の点について作業の計画をたててください。
  - ー　薬剤の種類、量を決める。
  - ー　走行路を点検する。
  - ー　走行速度を決める。
  - ー　作業手順を確認する。

  また、農協、防除共済組合などの職員から防除作業の注意事項について説明を受けてください。
- 作業の前に、装備するトラクタの取扱説明書をよくお読みください。



⚠ 警　告

適切な服装、保護具を身につけないと事故が起こることがあります。正しく作業するために、かならず適切な服装、保護具を身につけてください。



からだの状態

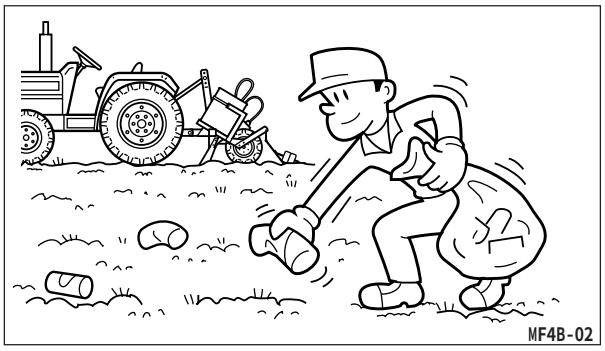
- 病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また、アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行わないでください。

服装について

- 滑らない底がついた靴をはいてください。つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行わないでください。
- 農薬を散布する場合、頭、あし、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身につけ、農薬が皮ふに触れないようにしてください。
- 農薬が浸透しないような防水性、汗をかかないような通気性のよい衣服を身につけてください。

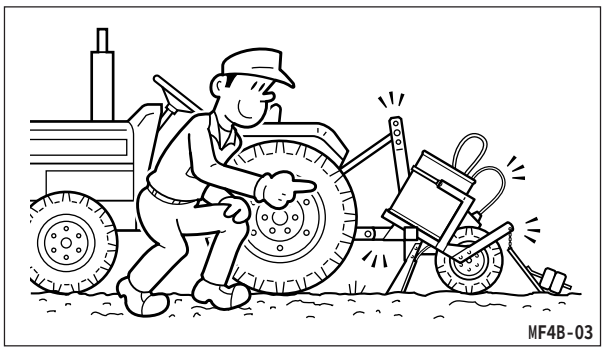
農薬散布の保護具について

- 農薬を吸い込まないために、防毒マスクを正しく着用してください。有機系の農薬を使用するときは有毒ガス用の吸収缶を使用してください。
- 防毒マスクの吸収缶には使用期限があります。シーズンごとに取り替えてください。
- 目を保護するため､保護めがねをつけてください。
- ゴム手袋またはビニール手袋を使用してください。
- 農薬にかぶれやすい人は、保護クリームを顔、首、手首などに塗ってください。
- タオル、手ぬぐい、水などを、汗を拭いたり顔を洗うために用意してください。

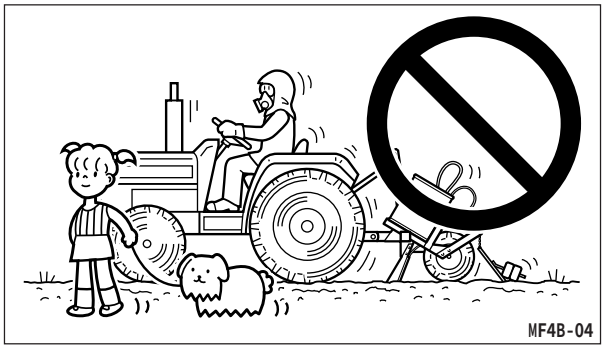


作業前の点検

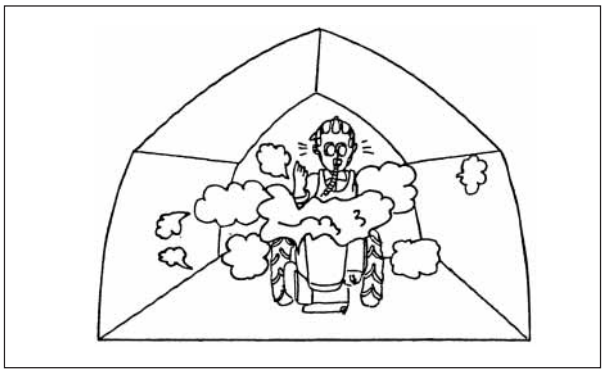
● 作業場所の点検は必ず行い、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。



● 各部品がきちんと取付けられているか確認してください。



● 子供や作業に関係のない人が近くにいないことを確認してください。



土壌消毒剤について

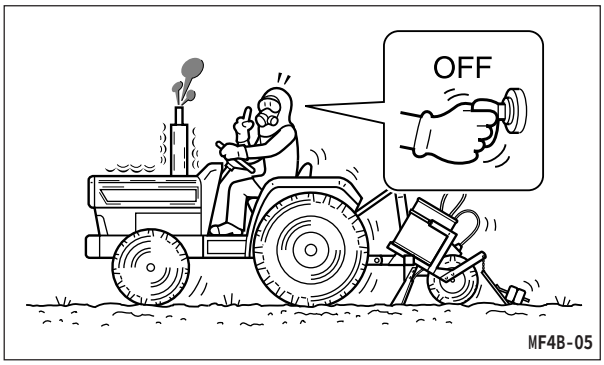
● 使用する薬剤の「使用安全基準」を守ってください。特にガス化した薬剤のこもりやすいハウス内の作業は、出入口を開けて充分に換気をしてください。換気が悪いと、ガス化した薬剤を吸い込んで、涙がでたり、呼吸困難になり大変危険です。特にクロールピクリンなど揮発性のものには充分注意してください。

⚠ 危　険

薬液は人体に有害ですので、薬液の取扱い上の注意事項を熟読の上、充分注意してください。

⚠ 警　告

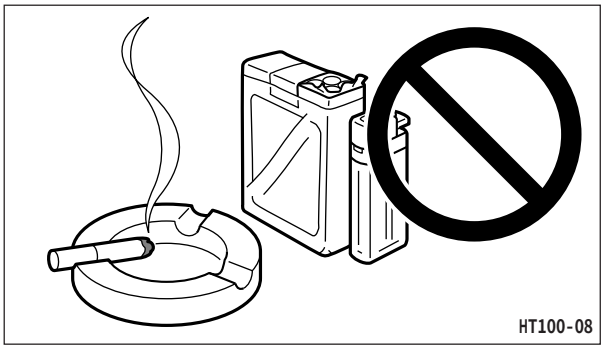
エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。



作業中の注意

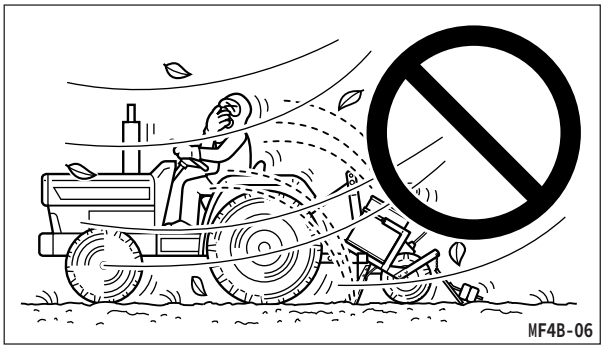
⚠ 警　告

危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。



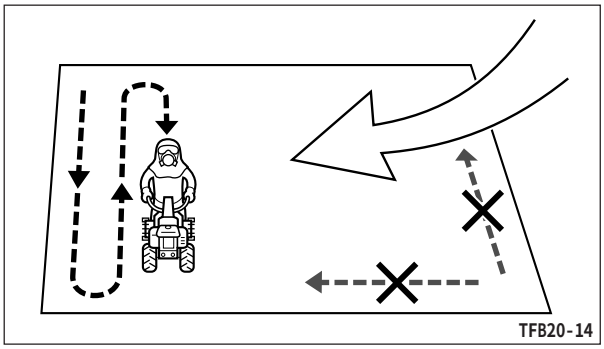
⚠ 警　告

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

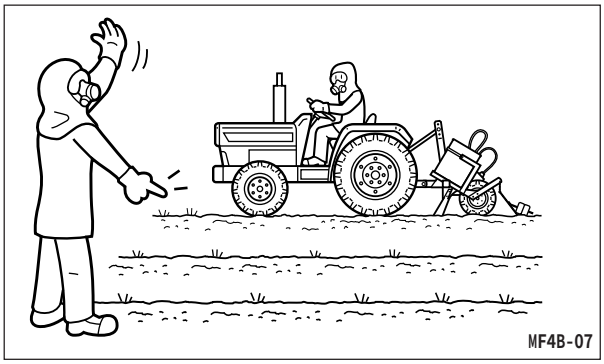


⚠ 警　告

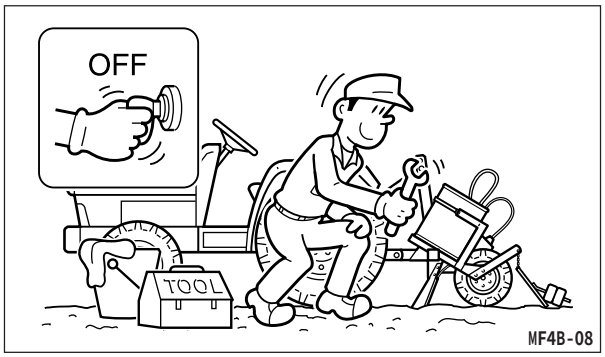
風が強いときには絶対に作業を行わないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。



- **農薬がからだにかかるのを避けるため、風下の方から作業をはじめてください。**



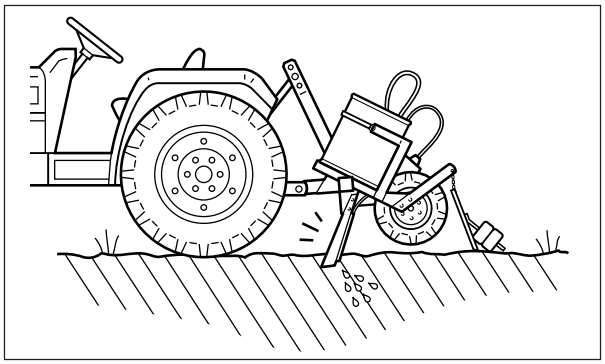
- **防除作業を二人以上で行う場合、合図をして安全を確認してください。**



点検・整備の注意

⚠ 警　告

修理、清掃などの作業を行うときは、必ず運転を停止してください。



⚠ 警　告

ポンプを洗浄する前に、ポンプ内の薬液を土中に排出してください。

⚠ 警　告

農薬に関する法令および注意事項は、農薬の種類、使用する場所などにより異なります。そのため、この取扱説明書に農薬に関するすべての法令、注意事項を記載することはできません。お客さまが使用する農薬の使用方法、ラベル表示、関連する法令、注意事項をよく理解してから、散布作業を行ってください。

農薬使用前の注意

- **農薬のラベルには必要な注意事項が書かれています。いつも使用している農薬でもラベルの内容に変更がある場合があります。使用する前に必ず読み、その指示にしたがってください。**
- **薬剤を取り扱うときは、防毒マスク、ゴム手袋、保護めがねなどの保護具を着用してください。**
- **作業を行う場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。**

⚠ 警　告

風が強いときには絶対に農薬を使用しないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。

農薬使用中の注意

- **作業は日中を避け、涼しい朝、夕方に行うようにしてください。気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。**
- **農薬の使用はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。**
- **作業をしながらタバコを吸ったり、食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。**

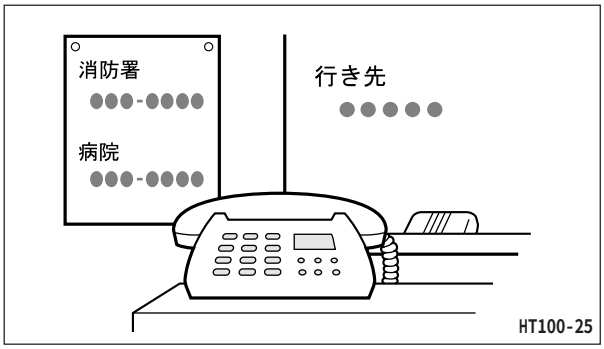


⚠ 警　告

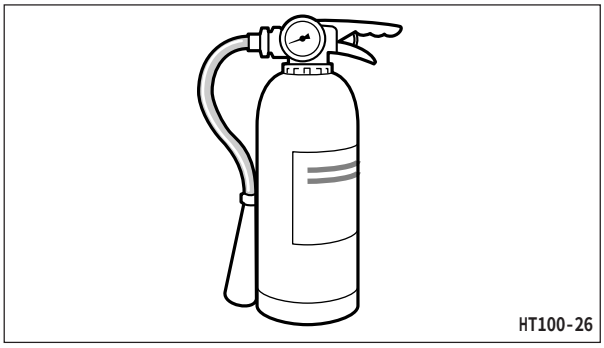
作業中、からだに異常を感じたときは、すぐに作業を中止し医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

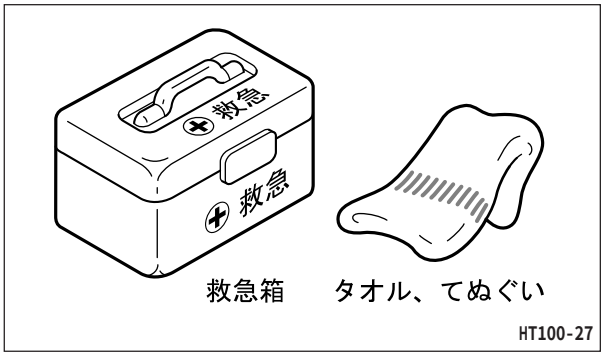
⚠ 警　告

作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。



HT100-25


HT100-26



救急箱　　タオル、てぬぐい

HT100-27

農薬使用後の注意

- **農薬が残ってしまった場合は、川、下水道などに流さないでください。**
- **農薬の空き容器はしっかりとふたをし、適切な方法で処理・保管してください。**
- **農薬、器具の後かたづけが終わったら、手、顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い、うがいをし、入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。**
- **農薬使用の後は飲酒をひかえてください。農薬を吸入した場合、体内の酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むとさらに酵素の働きが低下し疲労の回復が遅くなります。**

万一の事故に備えて

- **作業の前に**
  - **万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。**
    特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
  - **単独で作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。**
  - **作業現場には、呼子（笛）を持っていってください。**
- **発火に対する備え**

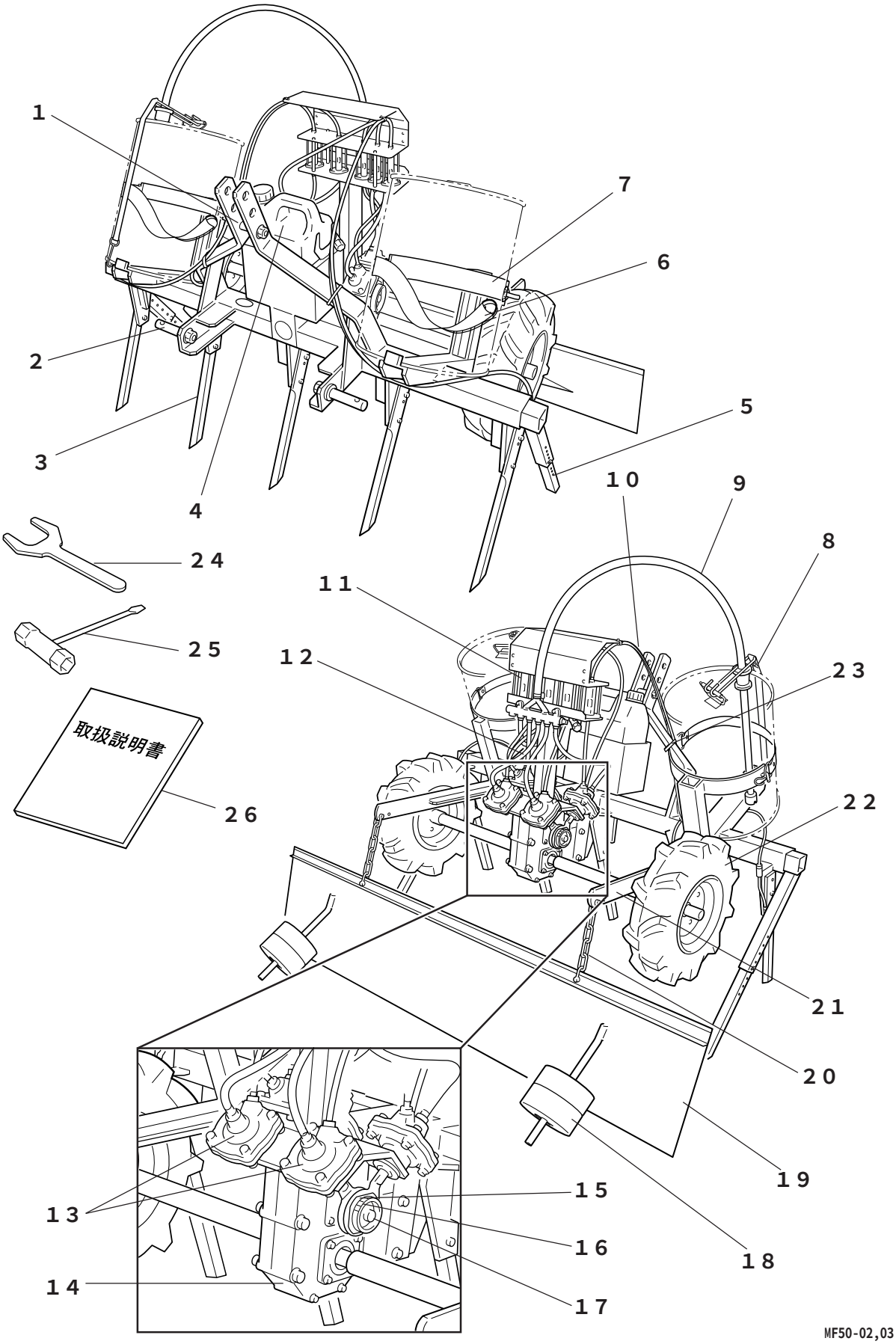
⚠ 警　告

作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、機械から離れ、まず、自分の身体の安全を確保してください。

  - **自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。**
  - **草木などに類焼しないよう注意してください。**
  - **シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。**
- **ケガへの備え**
  - **万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。**
    出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

各部の名称

※ 説明図は「ＭＦ５０」で解説しています。

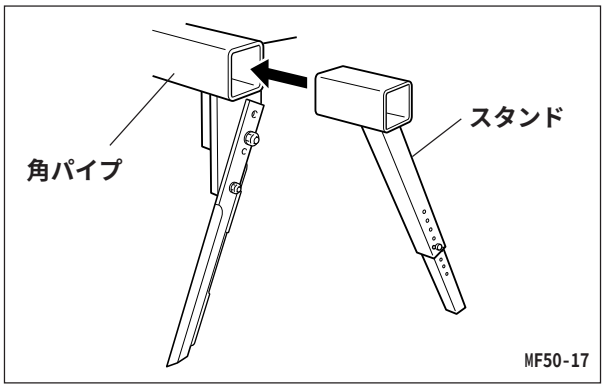


MF50-02,03

各部の名称とその機能

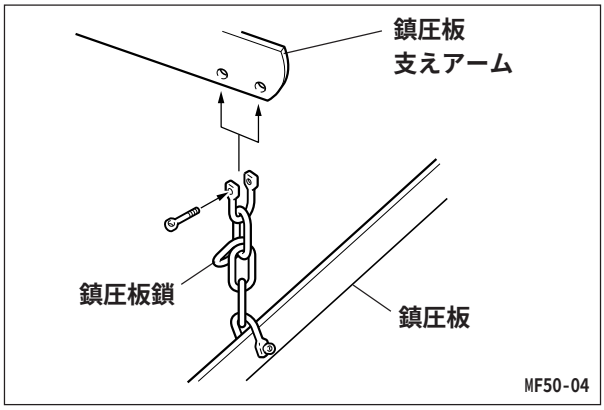
１．上部ヒッチピン	―――	トラクタのトップリンクに取付けます。
２．下部ヒッチピン	―――	トラクタのロアリンクに取付けます。
３．注入刀	―――	薬液を土中に吐出させます。
４．洗浄タンク	―――	洗浄液を入れ、ポンプ内の洗浄に使用します。
５．スタンド	―――	保管時や本機をトラクタに装着する際、正立させるのに使用します。
６．薬液缶バンド	―――	薬液缶を固定します。
７．缶取付台	―――	薬液缶を載せる台です。
８．薬液缶キャップ固定バンド	―――	薬液缶キャップが外れないように固定します。
９．吸入ホース（A）	―――	薬液缶のふたを取外して差し込み、薬液を吸入します。
１０．吐出ホース	―――	ポンプから吐出した薬液を注入刀に送り込みます。
１１．検流計	―――	薬液の流れを確認します。
１２．吸入ホース（B）	―――	分配管からポンプへ薬液を吸入させます。
１３．ダイヤフラムポンプ	―――	薬液を吸入、吐出させます。
１４．ミッション	―――	車輪の回転を４倍に増速し、ポンプを駆動させます。
１５．調量ダイヤル	―――	薬液の注入量を調整します。
１６．目盛板	―――	調量ダイヤルの線を目盛に合わせ、薬液の注入量を調整します。
１７．ロックナット	―――	調量ダイヤルを固定させます。
１８．鎮圧ウェイト	―――	鎮圧の働きを高めます。
１９．鎮圧板	―――	注入刀でできた作溝をふさぎ、鎮圧します。
２０．鎮圧板鎖	―――	鎮圧板を吊り下げます。
２１．鎮圧板支えアーム	―――	鎮圧板を鎖で吊り下げます。
２２．ポンプ駆動車輪	―――	車輪が接地し、トラクタを走行するとポンプを駆動させます。
２３．ホース支えバンド	―――	吐出ホースをフレームに固定します。
２４．片口スパナ	―――	調量ダイヤルの固定および調量位置合わせに使用します。
２５．ボックスレンチ	―――	調量ダイヤルのロックナットをゆるめたり、締めたりするときに使用します。
２６．取扱説明書	―――	機械を使用する前に必ず読んでください。

運転前の準備



スタンドの装着

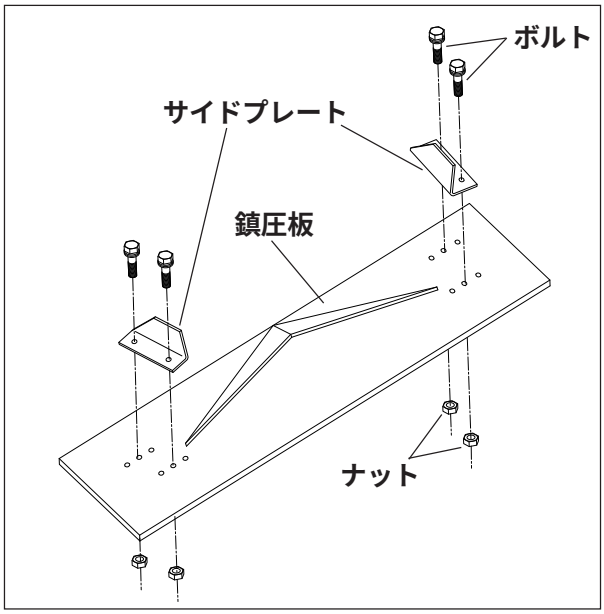
本機を木枠から取出し、本体フレーム角パイプの両側に付属のスタンドを取付けて、本機を正立させてください。



鎮圧板の組み付けと調整

梱包を解きますと、鎮圧板が分離されておりますので次の要領で組み付けてください。

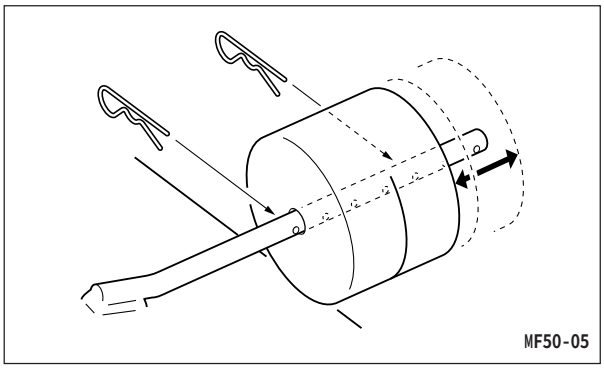
- 鎮圧板を鎮圧板鎖で本体の鎮圧板支えアームに組み付けてください。
- 旋廻時や移動時にトラクタのリンクを上昇させたとき、鎮圧板が駆動車輪に当たらないように吊り下げ位置を選んでください。
- 圃場条件に合わせ、鎖数により鎮圧板の吊り角度を調整し、土寄せ良くします。



サイドプレートの組み付け

ＭＦ５０、６０はサイドプレートを組み付けてください。

- 付属のサイドプレートをボルトとナットで鎮圧板に取り付けてください。
  ＭＦ６０の場合、けん引するトラクタのタイヤ幅に合わせて取り付けてください。
  タイヤ幅に合わない時は、取り付け穴を追加して使用してください。



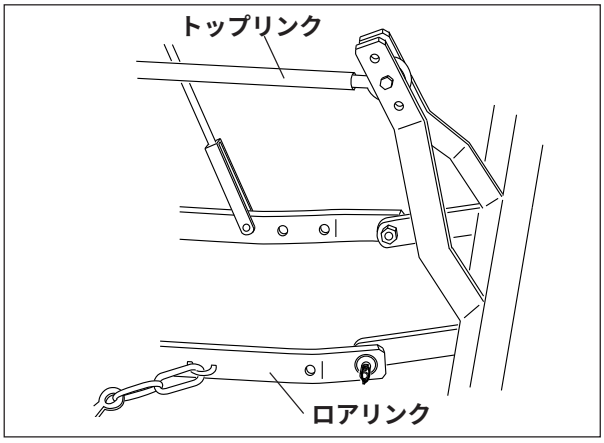
鎮圧ウェイトの組み付けと調整

鎮圧ウェイトは着脱可能ですので、使用時に圃場条件に合わせ､取り付け位置や取り付け個数を調整してください。

- 鎮圧ウェイトの取付位置を先端側に寄せると土寄せが多くなり、車輪跡が消えるようになります。

重　要

トラクタの操作は必ずトラクタの説明書にしたがってください。



トラクタへの装着

本機を駆動するトラクタは､巻末の仕様ページに記載されているものを選んでください。

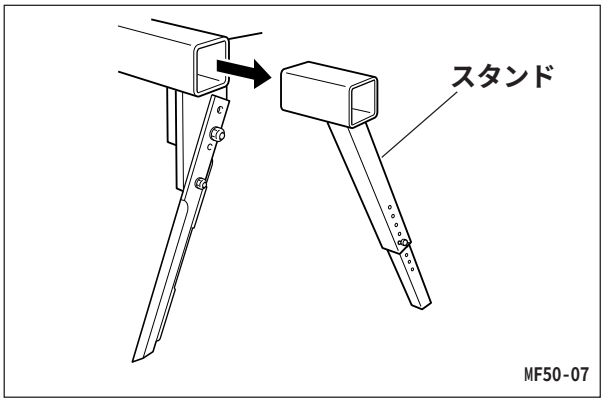
カテゴリⅠ型標準３点リンクの装着

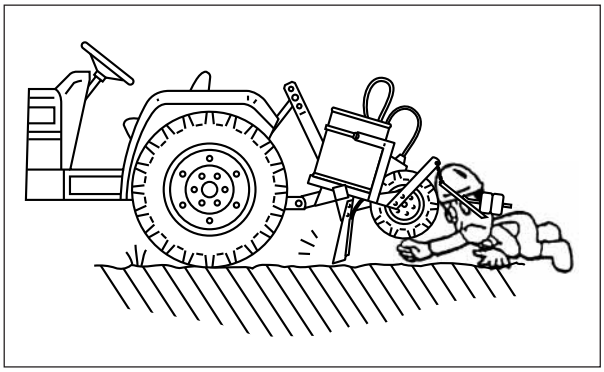
- トラクタ後部の３点リンクへ正しく取り付けてください。
- トラクタのロアリンクを下部ヒッチピンに取り付け、横振れしないようにしてください。
- トラクタのトップリンクを上部ヒッチピンに取り付け、固定してください。

オートヒッチの装着は、（社）日本農業機械化工業会制定の下記区分に適合しています。

ＭＦ４０，５０；
日農工　特殊オートヒッチ　Ａ－Ⅰ，Ａ－Ⅱ形
ＭＦ６０；
日農工　標準オートヒッチ　０：Ⅰ兼用
日農工　特殊オートヒッチ　Ｂ形

- 作業時はトラクタのリンクを上昇させ､スタンドを撤去してください。

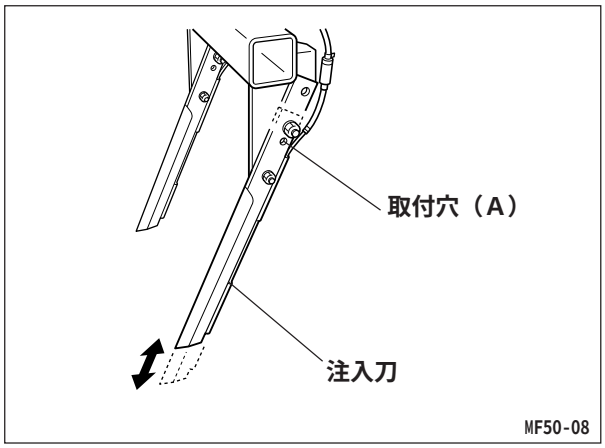




注入深さの調整

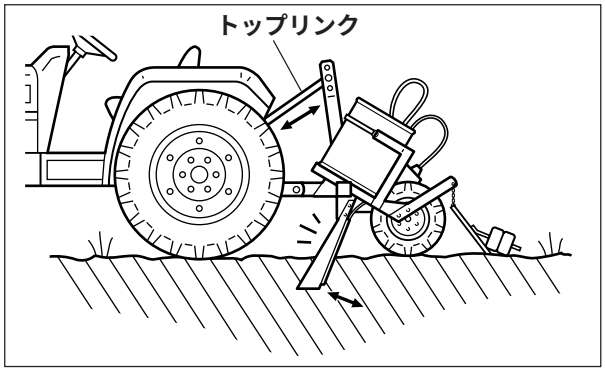
⚠ 警　告

作業機の下にもぐったり､足を踏み込んだりしないでください。



注入刀をフレーム部取付穴位置により調整ができます。
ＭＦ４０・・・・・・・・・3段階
ＭＦ５０，６０・・・・・・2段階

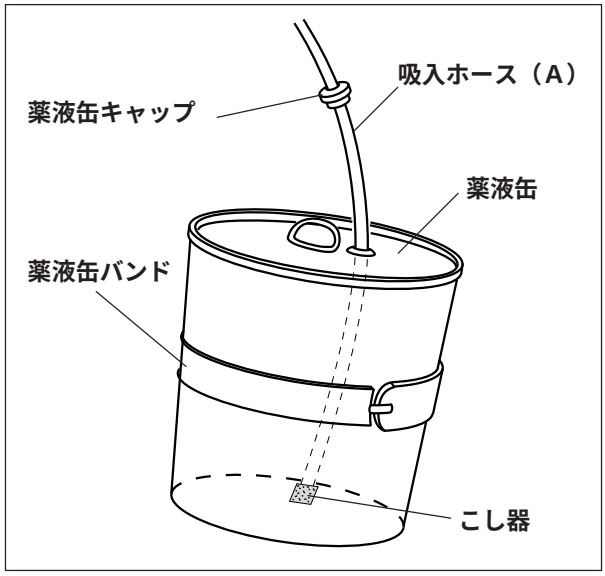
● 注入刀をフレーム部取付穴位置A部に取り付けると、注入深さを深くすることができます。



トラクタのトップリンクの長さ調整により微調整ができます。

● トラクタのトップリンクの長さを伸ばすと注入深さは浅くなり、縮めると深くなります。

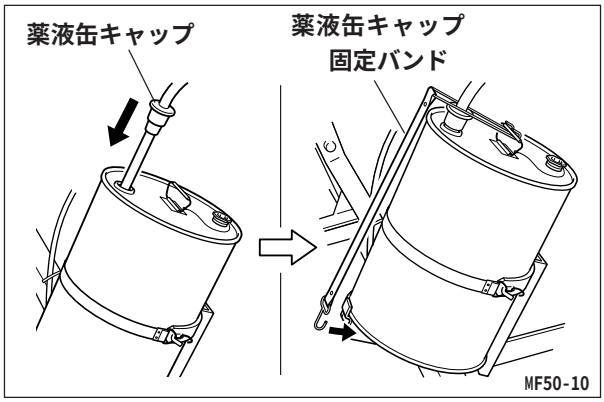
薬液缶の搭載



薬液缶（市販の薬液缶）を缶取り付け台へ載せ、ふたの位置を上側にして、薬液缶バンドで固定してください。
あらかじめ灯油、軽油などで試運転した後、吸入ホース（A）を搭載した薬液缶のふたを取り外し差し込んでください。

● 作業状態で吸入ホース（A）のこし器が薬液缶の最下部に位置するように薬液缶のふた位置を決めてください。

● 搭載した薬液缶のふたを取り外し、吸入ホース（A）のこし器を薬液缶の最下部まで押し込んでください。



● 薬液缶キャップをふたに差し込み、固定してください。

● 薬液缶キャップ固定バンドにてキャップが外れないようにしてください。

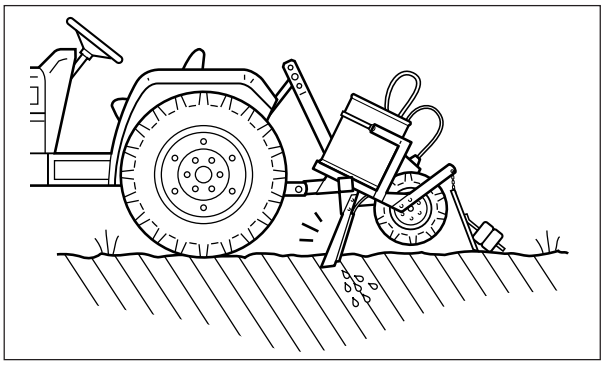
⚠ 警　告

適切な服装、保護具を身に付けないと事故が起こることがあります。正しく作業するために必ず適切な服装、保護具を身につけてください。

薬液は有害ですので、開缶、吸入ホースの取付け作業はガスを吸い込まないように注意してください。配管接続部から液漏れがないか確認してください。また、風のあるときは風上からの作業を心掛け、周囲の人や動物に注意を払ってください。
蒸発した薬液がこもりやすいハウス内作業は危険を伴います。体に感じる前に換気および充分な休憩をとってください。
薬液の取り扱いは、それぞれの薬剤の取扱説明書をよく読み、取り扱いの注意事項にしたがい安全作業に心掛けてください。

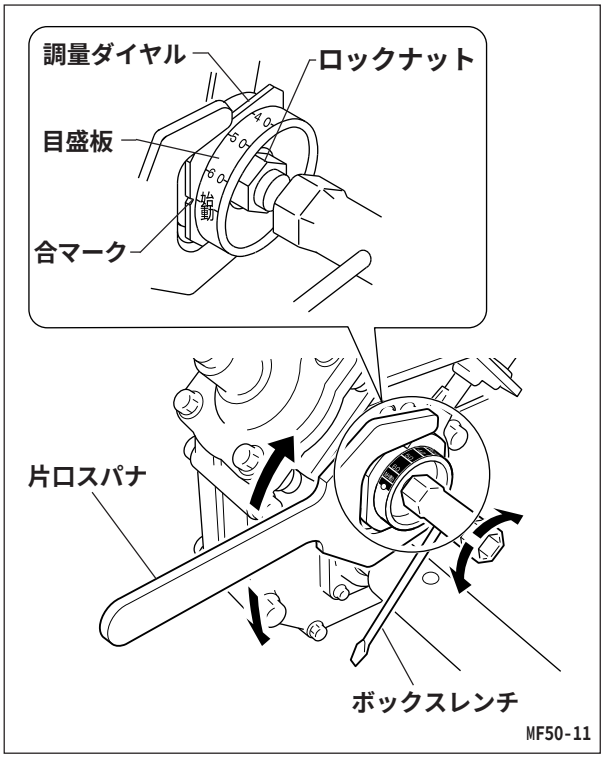
薬液注入量の調整

薬液注入量の調整目盛は参考です。使用する薬液の比重、粘度などと、圃場の土質、状態により変化しますので実際の作業において決めてください。



⚠ 警　告

薬液が配管内に残っている場合は、調量中に薬液が注入刀ノズルから飛び出しますので、注入刀を５ｃｍ程度土中に差し込んでから車輪を回転させ、排出させてください。



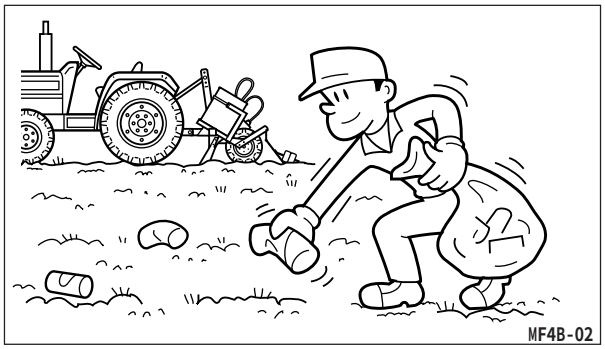
- **片口スパナで調量ダイヤルを固定し、ボックスレンチでロックナットをゆるめてください。**
- **調量する際は、最初、調量ダイヤルの線を目盛板の始動位置にて車輪を回転させ、配管内のエアを完全に抜いてから行なってください。**
- **タイヤを固定しながら片口スパナで調量ダイヤルの合マークを目盛板の数値に合わせ、薬液の注入量を調整してください。**
- **目盛板の数値は１０ａ当りの注入量（単位：Ｌ）を表わしますが、圃場の条件や使用薬剤の種類、気温により多少異なりますので条件に合わせ再調整してください。**
- **調量後、作業中にロックナットがゆるまないように確実に締め付けてください。**

注入量の目安表

目盛り	２０	３０	４０	５０	６０
注入量 (L/10a)	２０	３０	４０	５０	６０

- **本機は条間３０ｃｍ、注入ピッチ３０ｃｍになるように設計されています。**
- **標準作業速度にて、目盛り３０に合わせたとき、１点当り約3ｍＬ注入します。**

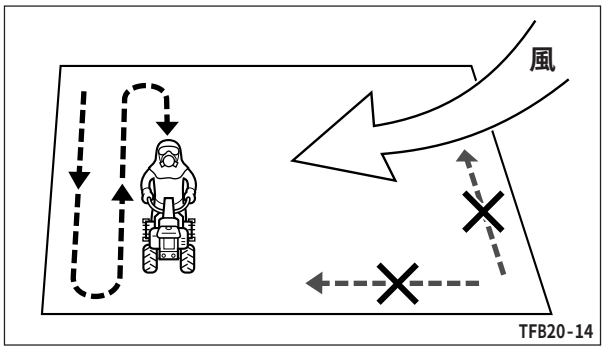
操作方法



整地

薬剤散布処理する圃場は、できるだけ事前に耕起、砕土、整地して残根やわらくずなどをよく取除いてから作業してください。
砂地や麦株のある圃場などは耕起しない方がかえって作業しやすい場合もありますので、それぞれの場面に適した方法で行ってください。

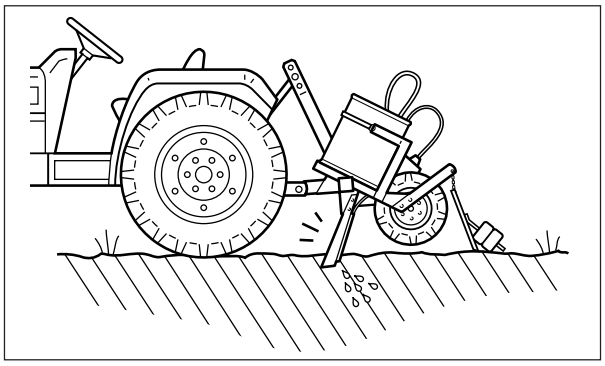
作業



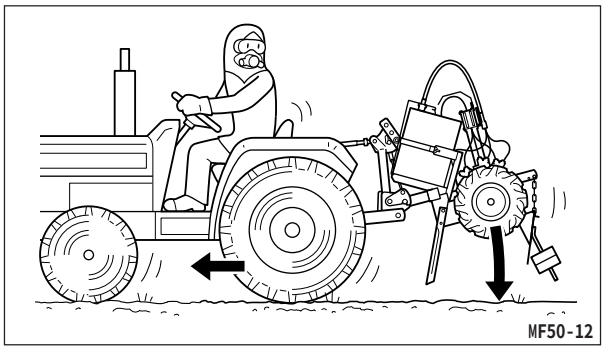
- 風のあるときは風下からの作業を心掛け、周囲の人や動物に注意を払ってください。

⚠ 警　告

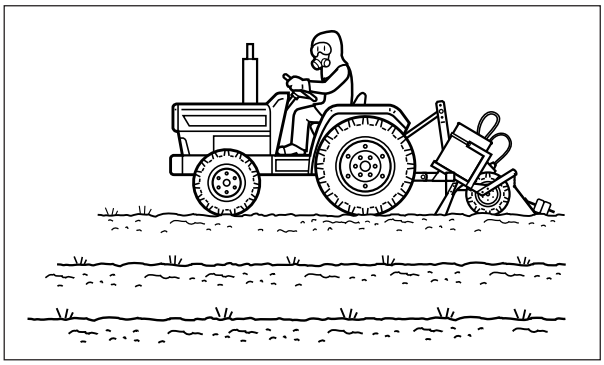
風が強いときには絶対に作業を行わないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。



- 最初、注入刀を５ｃｍ程度土中に差し込んで、薬液を薬液缶から吸い込み、配管内のエアが抜けるまでポンプ駆動車輪を回転させます。検流計の浮子の動きを見て確認します。
- 作業中は検流計の浮子の動きで確認しながら行ってください。浮子の動きが停止したり、動きが不規則の場合は薬液が注入していませんので、原因を探し、修理してから使用してください。



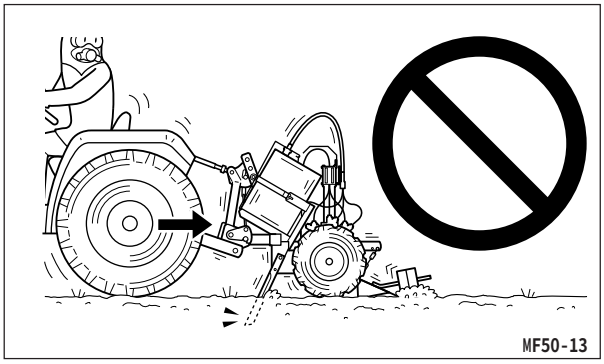
- トラクタを発進させながらトラクタのリンクをポンプ駆動車輪が回転し、注入刀が必要な深さになるまで下げます。
- ポンプ駆動車輪の回転によりポンプが作動し、薬液が注入刀より土中に注入されます。
- 標準作業速度は５ｋｍ／ｈ以下で行ってください。５ｋｍ／ｈ以上の作業速度では、必要な注入量が出なく、鎮圧も充分になりませんので注意してください。
- 旋回するときはトラクタのリンクを上げ、本機注入刀が完全に土中から抜けたことを確認してから行ってください。



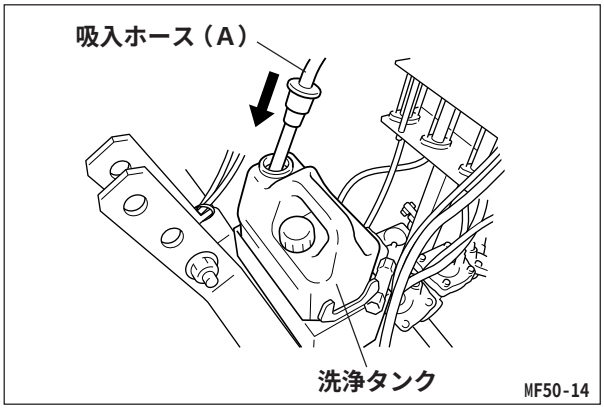
重　要

- **高粘度の薬液の使用や、作業速度が速すぎたりすると、吐出量が大きく低下することがあります。**
- **圃場表面の凸凹が激しかったり、また進行方向に沿って大きな段差があると、ポンプ駆動車輪が浮き上がり、ポンプ駆動車輪が回り難いことがありますので、圃場表面は均平にしてください。**

- **旋回したときに先作業の鎮圧跡に鎮圧板の端の部分が少し重なるように合わせて進行させると、３０ｃｍ間隔で注入することになり、均一な注入ができます。できるだけ直進してください。**



- **注入刀ノズルが詰まることがありますので、トラクタを停車したまま注入刀を土中へ差し込んだり、注入刀を土中へ差し込んだまま後退しないでください。**



- **作業が終了したら、薬液缶から吸入ホース（A）を抜き、洗浄液の入っている洗浄タンクに差し込みます。注入刀を５ｃｍ程度土中に差し込み、洗浄液を吸い込み、薬液が完全に抜けるまでポンプ駆動車輪を回転させます。**

⚠ 警　告

ポンプを洗浄する前に、ポンプ内の薬液を土中に排出してください。

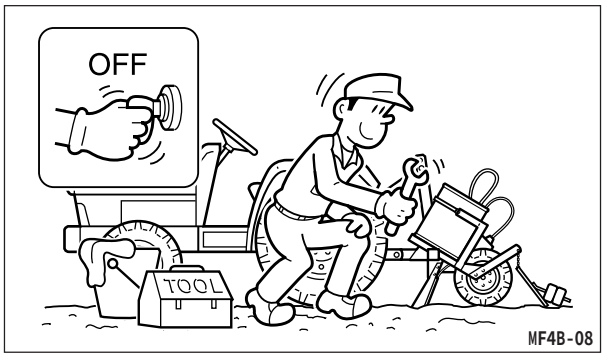
点検・整備

洗浄

この機械の材料は特に使用薬剤（ＤＤ、クロールピクリンなど）に対して、耐蝕性にすぐれたものを使っていますが､作業終了後は薬液が通るところを必ずすぐに洗浄してください。
灯油または軽油を使用して､薬液配管系統に通し洗浄してください。

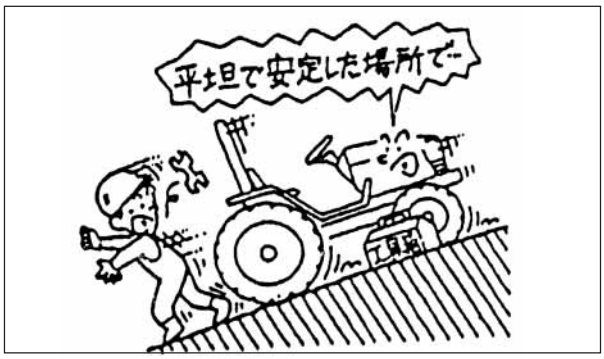
保守・点検

点検時は、トラクタのエンジンを停止させ、平坦な場所で行ってください。



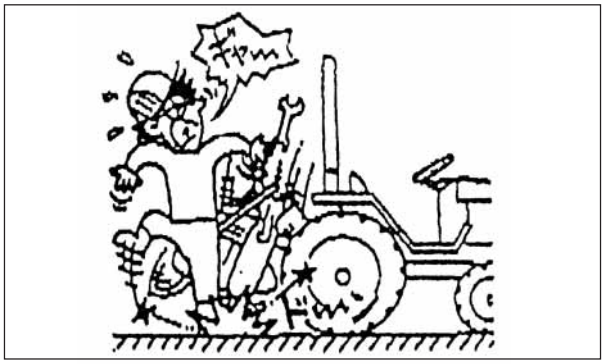
⚠ 警　告

点検整備中はエンジンを停止します。
作業機をトラクタ、テーラーに取付けた状態で点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。



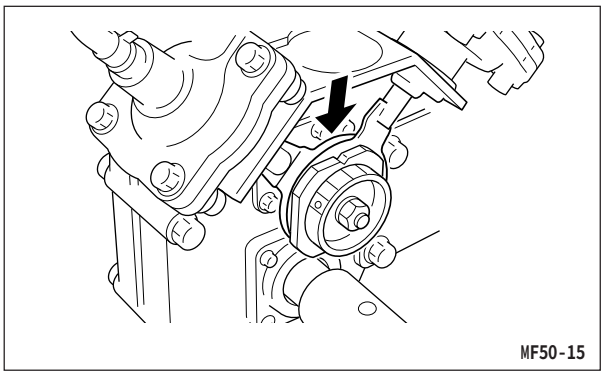
⚠ 警　告

点検整備は平坦で安定した場所で行います。交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安全な場所で、トラクタの前輪には歯止めをして点検整備してください。



⚠ 警　告

点検整備は作業機の落下防止を行います。点検整備のとき、作業機の落下防止のため、油圧ストップバルブを右に回して完全に締めてください。
なお、安全のために作業機の下に木の台などをしてください。



日常点検

- 使用前後に、機械の回転部に注油してください。（ギヤオイル、グリースなど）
- 薬液系統、特に配管接続部から液漏れがないか確認してください。
- 機械の各部のネジ類のゆるみや欠品がないか点検してください。
- 注入刀は泥、水分を完全に拭き取り、防錆剤、油などを塗って、雨水のあたらない湿気のない場所に保管してください。

長期格納

配管系統の液体は、完全に抜いてください。冬期に、検流計に残っていると、ガラス管が凍結し、破損する恐れがあります。

故障探求

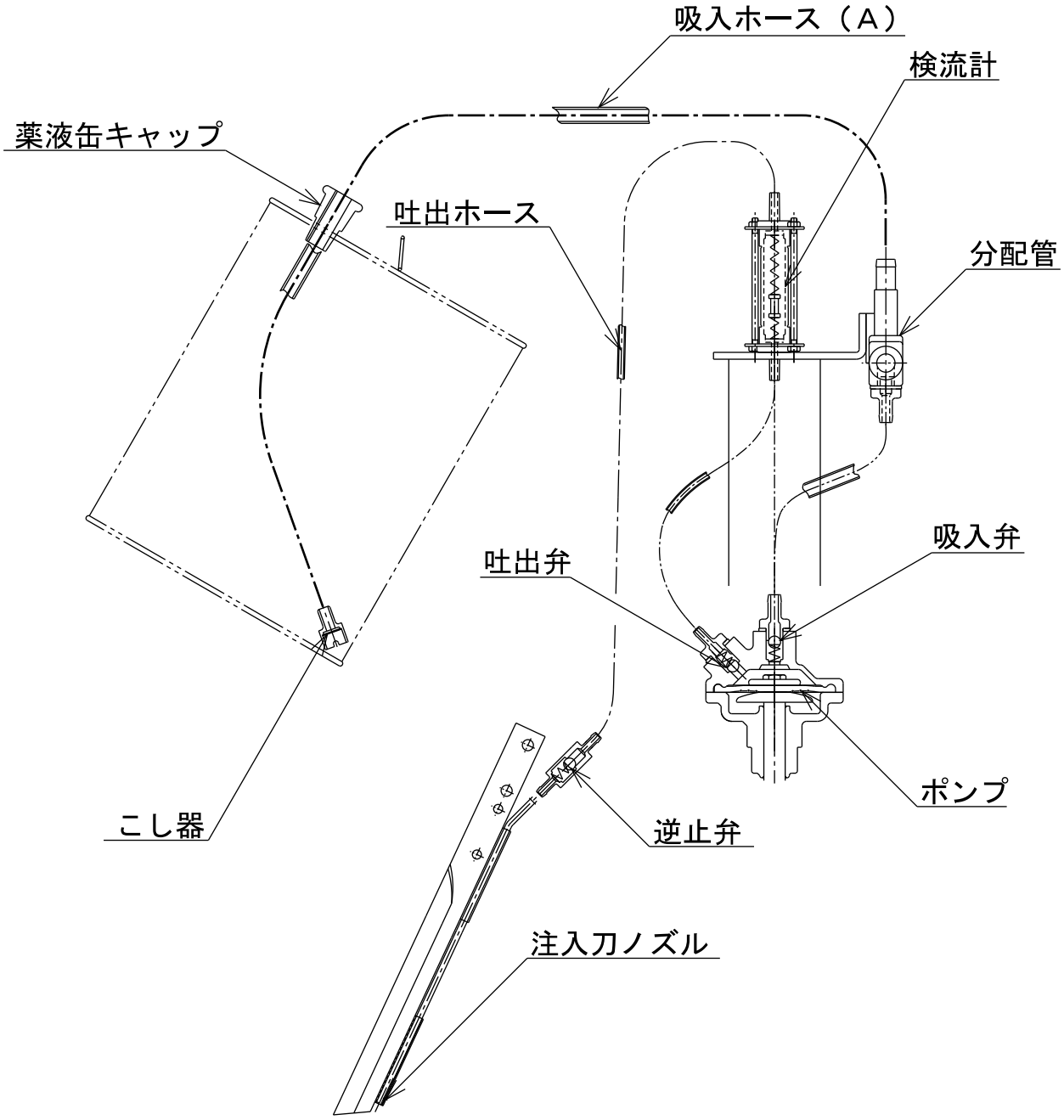
● 薬液が正しく注入しないときは、次のことを点検してください。

⚠ 警　告

点検および分解するときは、ポンプ内に薬液が残っている場合がありますので、必ず防毒マスク、防護衣、保護めがね、ゴム手袋、ゴム長靴、帽子などを着用してください。
ガス化した薬剤を吸い込むと、涙が出たり、呼吸困難になり大変危険です。

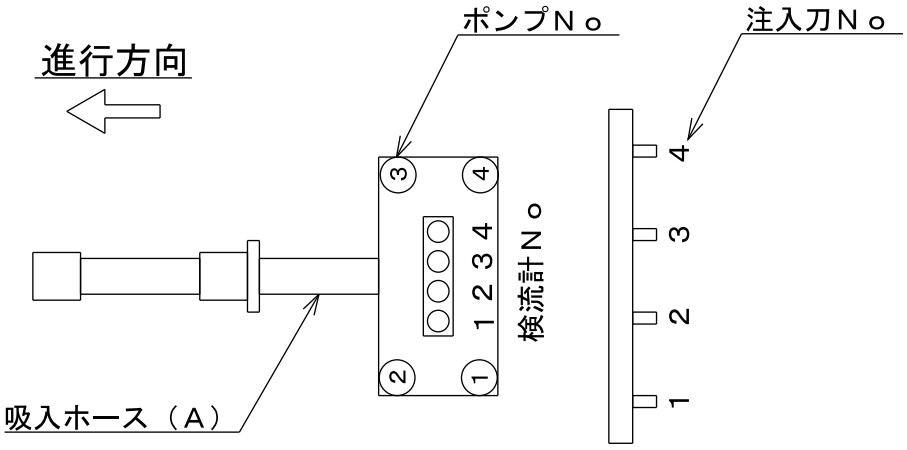
＜確認箇所＞	＜不具合の原因＞	＜処　置＞
こし器	詰まっている ……	清掃
	薬液面より浮き出ている ……	正しく取付ける
	吸入ホース（A）が折れている ……	修正または交換
配管系統	吸入ホース（A）に亀裂、穴があいて空気を吸込んでいる ……	交換
	配管接続部の締付け不良、ゆるい ……	増し締め、バンドを締める
	配管各部の詰まり（特に注入刀のノズル）…	清掃、調整
	ポンプが正しく作動していない ……	調整または販売店へ
ダイヤフラムポンプ	ダイヤフラムの破損、変形 ……	交換または販売店へ
	ダイヤフラム取付けボルトのゆるみ ……	増し締め
	ボールバルブ、バルブスプリングが破損、取付けが正しくない ……	交換または販売店へ
ポンプバルブ室	ボールバルブ部分にゴミの詰まり ……	清掃、調整
調量ダイヤル	必要な注入量目盛りにセットしていない …	目盛りを合わせる
ポンプ駆動車輪	地表につかない、スリップしている ……	トラクタのリンクを下げる、調整
検流計	破損している ……	交換
	金具が正しく取付けられていない ……	修正、増し締め
逆止弁	ボールバルブ部分にゴミの詰まり ……	清掃、調整
	ボールバルブ、バルブスプリングが破損、取付けが正しくない ……	交換または販売店へ

ポンプ配管図

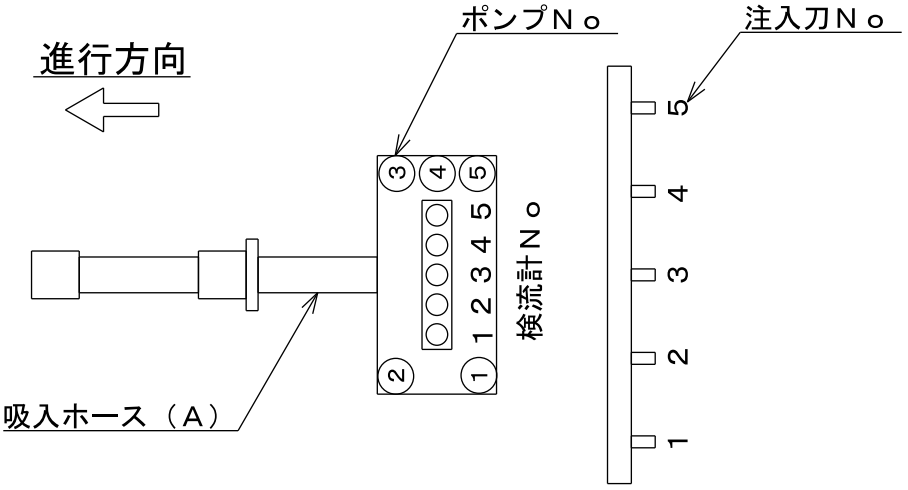


ポンプ配管図、検流計、注入刀配管図（上方より見る）

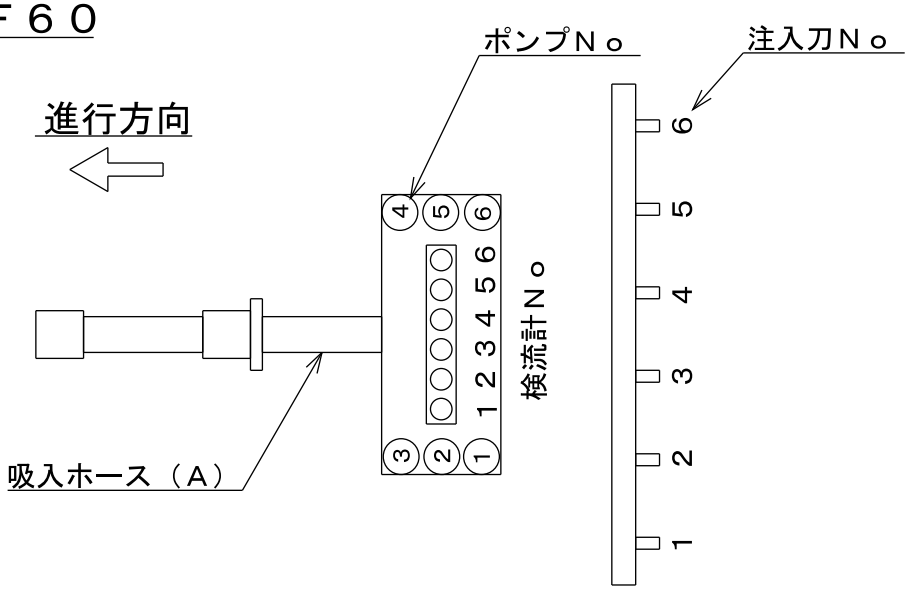
ＭＦ４０



ＭＦ５０



ＭＦ６０



仕　様

項　目		単 位	ＭＦ４０	ＭＦ５０	ＭＦ６０
長さ×幅×高さ		mm	800 × 1,110 × 880	770 × 1,250 × 880	770 × 1,550 × 880
質　量		kg	76	81	100
薬液ポンプ	型　式	－	ダイヤフラムポンプ		
	個　数	－	4	5	6
	駆動方式	－	接地輪駆動		
	注入量	L/10a	20 ～ 60		
駆動車輪数		個	2		4
注入刀	本　数	本	4	5	6
	標準深さ	cm	13.5 ～ 35	13.5 ～ 22.5	
	間　隔	cm	30		
作業幅		cm	120	150	180
適応トラクタの定格出力（４輪駆動）		kW(PS)	11（15）以上	15（20）以上	18（25）以上
トラクタ装着		－	カテゴリⅠ型標準３点リンク		
トラクタ装着オートヒッチ		－	日農工　特殊　A - Ⅰ形 , A - Ⅱ形		日農工 標準 0：Ⅰ兼用 日農工 特殊 B形
標準作業速度		km/h	2 ～ 5		

（長さおよび幅；鎮圧板除く・スタンド使用・水平状態、高さ；車輪下からパイプカバー上まで
質量；鎮圧板、鎮圧ウェイト除く）
＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6-2-11　　Tel 082-849-2005（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-002 50 4
X750408-240 4　　1202k 1495 ES

© 2000 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。